

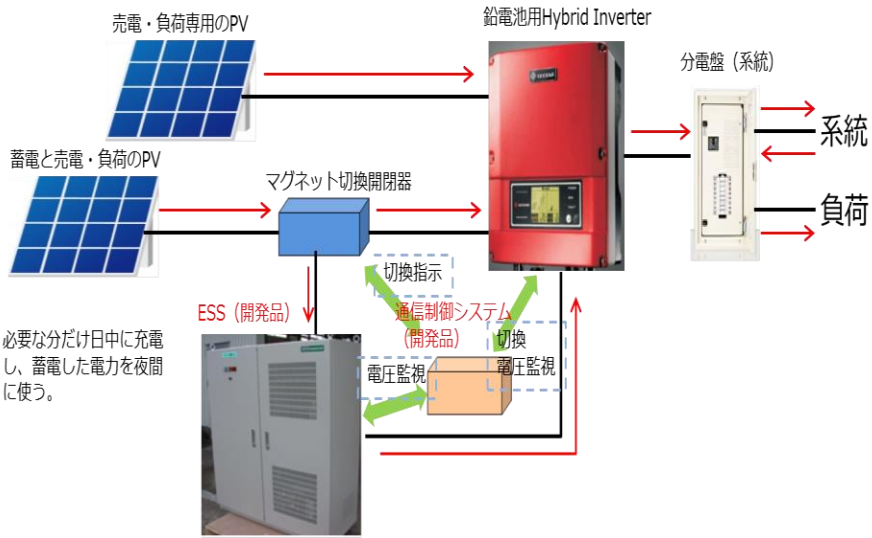
南アジア地域における蓄電池併設型太陽光発電システムの開発

事業実施団体:株式会社E&T総研、株式会社共創

リノベーション・実証の概要

電力供給が不安定なスリランカ及びモルディブにおいて、高温・多湿な環境でも利用可能な、複雑な制御を廃した、安価で高性能なリチウムイオン電池を搭載した小規模需要家向けの蓄電池併設型太陽光発電システムを開発する。

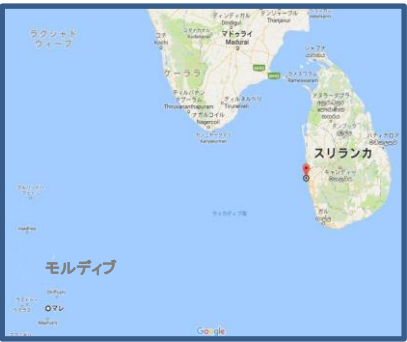
家庭及び小規模商業施設に本システムを導入し、停電時の非常用電源として活用するとともに、同地域の課題である夜間電力需要のピークを緩和する対策として電力を供給し、化石燃料による発電を減らし低炭素化を図る。



システムの概略図

対象とする国・地域の概要

南アジア地域は、経済発展とともに電力需要が急増しており、電力需給の逼迫による頻繁な電圧変動や停電が発生している。スリランカの電力事情の特徴である夜間の電力需要のピークへの需給緩和の対策が必要とされている。



地図データ©2017 Google

対象とする国・地域における事業化・普及の見込み

事業化見込み

- STEP1: 実証機設置後、安定した性能の確立とともにマーケティングを開始する。
- STEP2: 補助金事業終了後、現地資本でリチウムイオン電池工場を建設し、ESSの現地組立、生産、販売を開始する。
- STEP3: インド及び南アジア周辺国への販売を開始する。

普及の見込み(目標)

- 2020年までESS5kWh機を350台、10kWh機を170台導入。
- 2030年まで累積でESS5kWh機を7万台、10kWh機を3.5万台導入。